

【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2022年11月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

気候変動の影響 魚介類・海草に変化

日本の海や河川の水温上昇といった気候変動により、漁獲量や養殖期間に影響があると都道府県が見ている水産物が61品目に上ることが、共同通信の全国調査でわかった。魚介類や海藻の幅広い品目で、漁獲量の減少を中心としたマイナスの影響が大きい。一方、暖水系のブリやサワラが移動するなど「これまでにない魚が取れる」とプラス面を指摘した自治体も多かった。品目別で、最も多く影響があるとの回答が寄せられたのはノリ類で、マイナスの影響として、水温上昇による養殖開始時期の遅れや、南方系の魚による食害などが指摘された。高水温でも耐える品種の開発が進められている。漁業に関しては、資源減少や漁師の高齢化、漁船の燃料高騰などが苦境の要因と指摘されているが、地球温暖化の影響も深刻であるという結果となった。

(ニュースダイジェスト 2022年11月24日より)

① 漁獲できる海産物の種類の変化はどのようなことに影響を及ぼすだろうか？

② 乱獲を防止するにはどうすればよいだろうか？

③ 海洋ごみ問題を解決する手段としてどのようなことが考えられるだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール 14 について解説いただきました。

14

海の豊かさを守ろう



海の豊かさを守ろう

天然の魚介類が食べられなくなる日が来るかもしれない、と聞くと残念に感じる人も少なくないでしょう。魚や甲殻類、海草などの海洋資源が枯渇し始めているのです。

その大きな原因が気候変動です。気候変動は、地上気温が上昇して地球が温暖化していることを言い、その対策としては、二酸化炭素などの温暖化ガスの排出を減らすことや、二酸化炭素を吸収してくれる森林を守ることがまず頭に思い浮かびます。しかし、二酸化炭素を吸収してくれるのは森林だけではありません。海も人間が排出する二酸化炭素を吸収する機能を持っていて、地球温暖化の抑制に重要な役割を担っています。

その海水の温度が地球温暖化の影響により上昇しているのです。海水温度が上昇することで、海が二酸化炭素を吸収しにくくなり大気中にとどまってしまうため、温暖化を抑える効果が薄れてきています。

また、海水温度の上昇は海の生態系に大きな影響を及ぼします。これまで獲れていた魚が獲れなくなったり、逆に今まで獲れなかった魚が獲れたり、魚の生育海域が変化してきているのです。また、赤潮や塩害など、魚介類の生育に悪影響を与える環境変化も発生しやすくなります。国際機関の調査では、将来、地球の平均気温が2℃上昇すると、サンゴが99%死滅するという研究結果もあります。

もうひとつ、魚や海草などの海の資源を守っていくためには、魚介類の乱獲をやめなければなりません。水産庁によると、過剰に漁獲されている状態の海洋資源の割合は全体の1/3ほどまでに増加しています^(*)。漁獲競争の中で成長前の若い魚を獲る傾向があること、設備を大きくしてコストを下げる効果をねらっていること、特定の魚や漁場に集中すること、などによって必要以上の海の生きものを捕獲していると言われています。

SDGs 14番「海の豊かさを守ろう」では海洋資源を守っていくことがターゲットとして設定されていますが、それには、SDGs 13番「気候変動に具体的な対策を」に取り組んでいくことが非常に重要なのです。また、そのほかにも、プラスチックなどの海洋ごみの問題、船の燃料高騰、漁師の高齢化、担い手不足など、海の豊かさを守るためにはさまざまな課題を解決していかなければならないのです。

海は地球の表面の約70%の面積を占めています。気候変動をやわらげたり、豊かな海洋資源を提供してくれたり、私たちの生活を守っているだけでなく、地球の持続可能性にとってもとても重要なのです。

*1…水産庁 世界の資源状況

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r02_h/trend/1/tl_4_1.html